



外濠浄化に向けた実施計画＜概要版＞
令和8年3月



概要

1. 概要

(1) 外濠の現状

アオコの大量発生に伴う都市環境の悪化により、まちに安らぎや潤いを与える機能を十分に発揮できておらず、都市の魅力が低下している状況



アオコ発生状況



外濠水辺再生



魅力あるまちづくり

《出典：「未来の東京」戦略 version up2022(R4.2)》

(2) 外濠浄化の目的

外濠浄化の推進を契機として、外濠が玉川上水や荒川とつながることにより、玉川上水や荒川から外濠、神田川、日本橋川、隅田川を経て東京湾へと至る水の流れを形成することで水質を改善し、自然と調和した「水の都」東京をよみがえらせる。

外濠の現状と浄化のイメージ

(3) 外濠浄化の取組経緯

平成29年9月の「都市づくりのグランドデザイン」策定以降、外濠浄化の取組を推進

(4) 実施計画の位置付け

「外濠浄化」を具体化する道筋を示すための計画（外濠への導水施設整備の内容、事業期間、概算事業費等を定める。）

(5) 事業スキーム等

外濠に浄化用の水を導水することで、アオコの大量発生を抑制

- ・ 必要な施設は、既存施設や既存事業を最大限活用して整備
- ・ 役割は、庁内関係局(都市整備局、水道局、下水道局、環境局、建設局)にて分担
- ・ 必要な水量（0.5m³/s程度）は下水再生水、荒川河川水※を活用して確保



(図の出典) 国土地理院地図に一部加筆

外濠（市ヶ谷濠、新見附濠、牛込濠）の位置

整備内容・事業期間

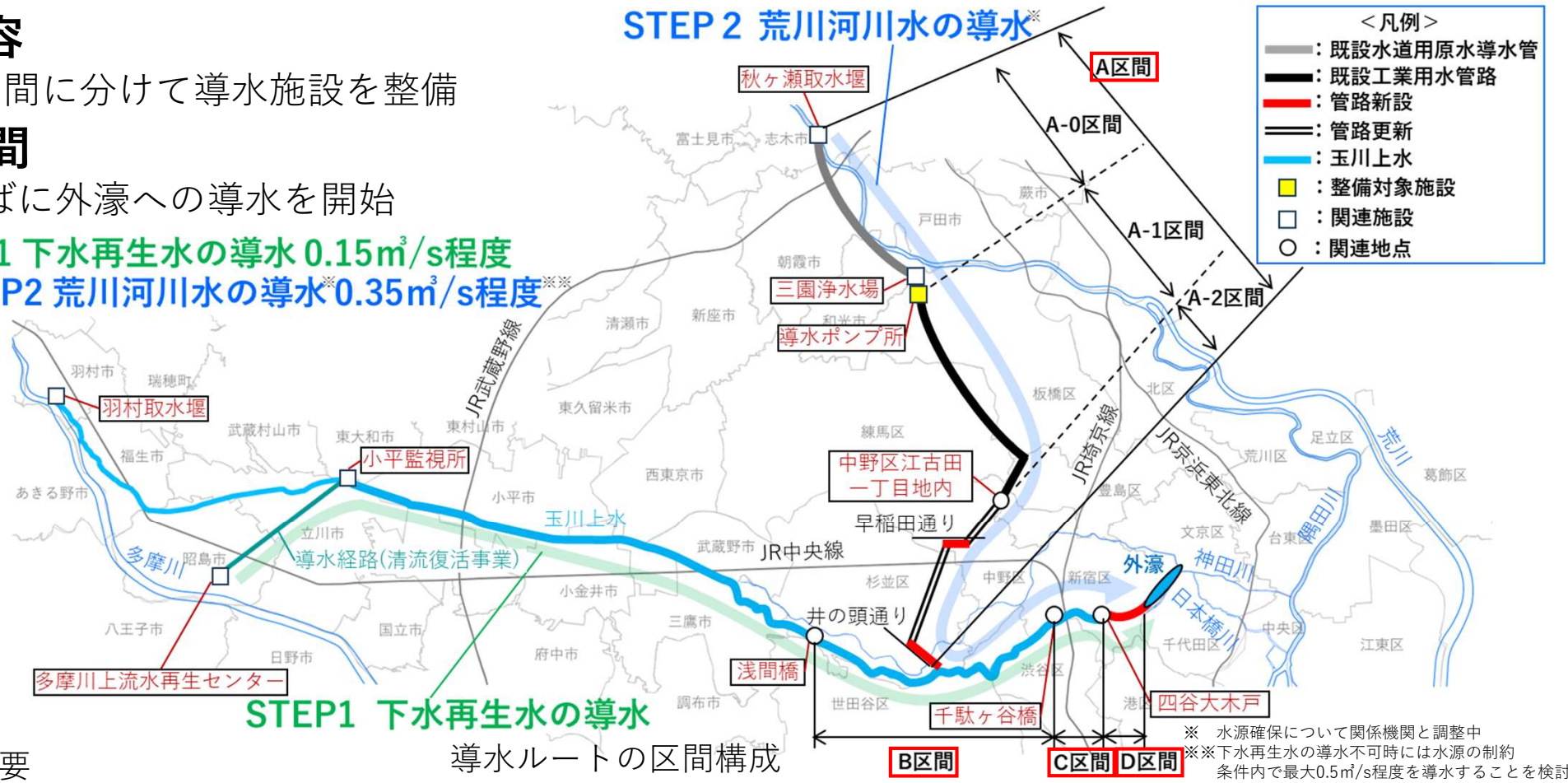
2. 整備内容

A～Dの4区間に分けて導水施設を整備

3. 事業期間

2030年代半ばに外濠への導水を開始

- STEP1 下水再生水の導水0.15m³/s程度
- STEP2 荒川河川水の導水0.35m³/s程度



区間	整備内容	工事の概要	事業期間	
			2025年度	2030年代半ば
A	・三園浄水場支障建築物等撤去 ・導水ポンプ所新設 ・導水路補修、改良、新設	・既存建築物を撤去した上での新たな建築物の建設 ・10km以上に及ぶ管路の空気弁、制水弁等の補修 ・8km以上に及ぶ管路の改良及び管路の新設	およそ10年	
B	・導水路しゅんせつ、補修、法面改修	・10kmに及ぶ導水路内の土砂のしゅんせつや施設の補修	およそ9年	
C	・玉川上水補修	・別途事業※※※による玉川上水に流入する下水の流れの切り替え ・その後、約2kmに及ぶ玉川上水の損傷箇所の補修 ※※※下水道施設の整備	およそ10年※※※ ※※※別途事業の期間を含む	
D	・導水路新設	・2km以上に及ぶ導水路の新設 ・史跡に配慮した外濠吐け口の整備	およそ10年	

管理・事業費・効果等

4. 運転管理

ポンプの運転・監視、水路や管路における水量調整及び上流部の水質管理等を実施

5. 維持管理

日常点検、事故時対応、清掃、占用物件としての調整及び関係部署との運転調整等を実施

6. 概算事業費

整備費用は340億円※、※※、運転及び維持管理費用は2.4億円/年

(※物価上昇率を反映した概算額 ※※工業用水道で使用していた管路を導水路へ転用の際の水道事業会計から一般会計への譲渡の費用は別途調整中)

7. 整備効果

導水事業によるアオコの発生抑制

8. モニタリング

導水による外濠の水質改善効果や生態系への影響等を把握するため、導水後に水質調査、生物の捕獲調査等のモニタリングを実施

9. 機運醸成・理解促進の取組

事業の目的や進捗状況を広く共有し、地域住民や関係者への事業のPR・情報発信を実施

■PR・情報発信の方法（案）

- ・看板、パンフレット、デジタルサイネージ、SNS等の活用
- ・現場見学会の開催及び見学所の設置
- ・イベントの開催等



都民向け勉強会の開催
(令和7年11月開催時の様子)



現場見学会の開催
(水道工事での取組事例)



PR動画の公開
(外濠の水辺再生事業PR動画のワンシーン)



ブルーライトアップへの参加
(令和7年度の様子)

写真出典：国土交通省WEBサイト
(https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_tk1_000080.html)